

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

コロナ・実態・事例ニュース



2023年8月17日発行 (No.27) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

コロナ第9波！福祉の現場で何が起きているのか！緊急アンケート！

お寄せいただいた声をご紹介します！

VOL.3

現在、直面している状況・課題・問題点など…

- 5類に伴い行動規制が無くなり、世の中は感染意識が薄らぎ症状の軽度化も重なり感染リスクが増大しています。高齢者を守るために施設独自の感染予防対策をしていますが、利用者、職員とその家族に陽性者が発症を抑えることができないのが現状です。高齢者や基礎疾患がある方が安心して暮らせるような感染対策（陽性者の原則入院、検査費用の無料化、診療の無料化等）をしっかり行ってほしい。（高齢）
- 5類となり入居者様にコロナ前のような充実した生活を送っていただきたいとは思っていますが、外食等なかなか進められない実情があります。（高齢）
- 家族の感染で通えなくなる子どもへの対応。（障害児）
- 陽性者が出ると、同じグループ利用者の連日の検査対応に手が取られる。事業所の収入（報酬）減。5日では体調改善が難しい方も多く、体制が不安定。咳等の体調不良があっても、家庭からの申告がなく感染が広がりやすくなった。（障害）
- 同居の利用者家族が感染された場合高確率で感染される印象。濃厚接触者の定義を無くし、感染リスク者の受け入れは事業所判断とされている。発症していない状態で利用希望があると感染リスクがあっても集団生活の場に来られることになる。これを事業所判断とされることに困惑を感じる。（高齢）
- スタッフの感染者が相次ぎ、スタッフ不足に陥っている。ホーム内で陽性者が出た時、ホーム内分離できる利用者ばかりではないので、場所を変えての支援が必要だが、その場所と体制が課題である。完全にゾーン分け出来る状態でもないの、スタッフへの感染のリスクも高い。又、感染して発熱していると受診を拒否されることもある。コロナの薬が処方されるケースは少なく、状態をホームに一任されることも多く困っている。（障害）

国や自治体への要望…

- 経済を守ることも大切だが、人の命を守る政策を第一に行っていただきたい。高齢者や基礎疾患のある方の命も若い方の命も重さは同じです。（高齢）
- コロナ陽性がはっきりするには無症状の方もいる中では、検査キットでの判断が非常に重要と考えます。ぜひ今後も検査キットの無料配布を切に希望いたします。（高齢）
- 施設の広さ。（障害児）
- 報酬の補填。（障害）
- 感染のハイリスク事業と定めている以上、行政はすべてを事業所の判断とするのではなくハイリスク事業で感染拡大をしないための具体的な方策や決定事項を行うべきかと思う。その方針に従い社会福祉事業を運営し感染拡大した際には、休業や縮小運営の補填を行うべきかと思う。今回の5類移行の福祉事業の取り扱いは、事業所が決めたことなので感染拡大しても事業所の責任、もちろん補填も行わない、と宣言したものだと感じています。（高齢）
- コロナがインフルエンザ並みに受診でき、誰もが安心して医療を受けることができるまでは、障がいのある人や高齢者などは保健所が責任をもって入院調整など進めてほしい。無料PCR検査は必要な施設に配布してほしい。（障害）



コロナ第9波！福祉の現場で何が起きているのか！緊急アンケート！
<https://forms.gle/obzEvNmHahwF75br5>

